

構造生物学

責任者・コーディネーター	構造生物薬学分野 野中 孝昌 教授		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 18 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

細胞内で起こっている現象を理解するためには、酵素をはじめとする生体高分子の三次元構造に関する知見を得ることが不可欠である。個々の原子を区別できるほど詳細な生体高分子の全体像を得る最も一般的な方法は、結晶からの回折X線を解析することである。一方、溶液構造を知る手段としては、核磁気共鳴（NMR）分光法が優れている。さらに電子顕微鏡単粒子解析やその他の分光法も立体構造を知るための手段として重要である。本講義では、これらの手法の原理と、立体構造に基づいた医薬品の開発／創薬のための基礎知識を習得する。

構造生物学は、生物学、生化学、分子生物学、有機化学、分析化学、薬化学、薬理学、および物理化学などから構成される総合科学である。したがって、本科目の基礎としては、特に「薬学生物2（生体分子）」、「物理化学1（分子の性質と電磁波）」、「生化学1（タンパク質科学）」、および「薬学実習2（物理化学）」などが重要である。

・教育成果（アウトカム）

生体高分子の立体構造、生体高分子が関与する相互作用、およびそれらを解析する手法に関する基本的知識を習得することによって、生体の機能や医薬品の働きが三次元的な相互作用によって支配されていることを理解する。
(ディプロマ・ポリシー：2,7)

・到達目標（SBO）

1. タンパク質の変性とフォールディングの実験を解説できる。
2. タンパク質の熱力学的安定性を可能にしている微視的相互作用の物理化学を理解できる。
3. タンパク質機能に関係するダイナミクスを概説できる。(☆)
4. 立体構造からの特徴抽出法と立体構造同士を比較する方法について説明できる。(☆)
5. 配列と構造の進化的な側面について説明できる。(☆)
6. 構造予測の方法論を概説できる。(☆)
7. タンパク質や核酸のダイナミクスを計算機で調べる方法の基礎を理解できる。(☆)
8. 種々の生体高分子の構造解析手法を説明できる。(☆)
9. 生体超分子の解析における実験と構造バイオインフォマティクスの関係を概説できる。(☆)
10. タンパク質と核酸の相互作用について具体例を挙げて説明できる。(☆)
11. タンパク質と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。(☆)
12. 構造研究に向けた組換えタンパク質の調製法を概説できる。(☆)

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/3	月	2	構造生物薬学分野	野中 孝昌 教授	タンパク質の変性とフォールディング、構造をつくる相互、タンパク質構造のダイナミクスと構造変化 1. タンパク質の変性とフォールディングの実験を解説できる。 2. タンパク質の熱力学的安定性を可能にしている微視的相互作用の物理化学を理解できる。 3. タンパク質機能に関するダイナミクスを概説できる。
9/10	月	2	構造生物薬学分野	野中 孝昌 教授	コンピュータグラフィックスによる可視化、立体構造からの特徴抽出、立体構造比較 1. 立体構造からの特徴抽出法と立体構造同士を比較する方法について説明できる。
9/20	木	4	構造生物薬学分野	野中 孝昌 教授	配列と構造の進化的な保存、プロテインデータバンク、構造の保存性・構造分類データベース、配列と構造の関係-配列データベース、構造と機能の関係-機能分類データベース 1. 配列と構造の進化的な側面について説明できる。
10/1	月	2	構造生物薬学分野	野中 孝昌 教授	二次構造予測、立体構造予測、膜タンパク質の構造予測、天然変性領域予測、タンパク質立体構造の設計 1. 構造予測の方法論を概説できる。
10/11	木	4	構造生物薬学分野	野中 孝昌 教授	全原子モデルの分子シミュレーション、粗視化モデルによる巨大システムのシミュレーション、ドッキングによる複合体予測、創薬への応用 1. タンパク質や核酸のダイナミクスを計算機で調べる方法の基礎を理解できる。
10/15	月	2	構造生物薬学分野	野中 孝昌 教授	立体構造情報、X線結晶解析、NMR、電子顕微鏡単粒子解析、生体超分子の立体構造解析 1. 生体高分子の構造解析手法を説明できる。 2. 生体超分子の解析における実験と構造バイオインフォマティクスの関係を概説できる。

10/22	月	2	構造生物薬学分野	毛塚 雄一郎 助教	タンパク質と核酸の相互作用 1. 核酸の立体構造について説明できる。 2. タンパク質と核酸の相互作用について具体例を挙げて説明できる。
10/29	月	2	構造生物薬学分野	毛塚 雄一郎 助教	タンパク質と医薬品の相互作用 1. タンパク質と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を具体例を挙げて説明できる。
11/19	月	2	構造生物薬学分野	毛塚 雄一郎 助教	組換えタンパク質の調製 1. 組換えタンパク質の調製法を概説できる。
11/26	月	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	生体高分子の構造に基づく創薬の基礎 1. 代謝経路と標的分子と創薬の関係を説明できる。
12/3	月	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	溶液中の生体高分子の構造と構造変化の検出 1. 溶液中の構造や構造変化を解析する意味とその解析法について説明できる。
12/10	月	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	立体構造解析とその応用 1. 生体高分子の構造解析に基づく創薬手法について説明できる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	タンパク質の立体構造入門	藤博幸 編	講談社	2010
参	タンパク質計算科学：基礎と創薬への応用	神谷 成敏 他	共立出版	2009
参	実験化学講座 11 物質の構造 III 「回折」	日本化学会 編	丸善	2006
参	構造生物学：原子構造からみた生命現象の営み	樋口 芳樹、中川 敦史	共立出版	2010
参	スタンダード薬学シリーズ II 2 物理系薬学Ⅲ. 機器分析・構造決定	日本薬学会 編	東京化学同人	2016
参	宇宙兄弟 第27巻	小山宙哉	講談社	2015
参	薬学用語辞典	日本薬学会 編	東京化学同人	2012

・成績評価方法

定期試験（80%）、予習テスト（10%）、および復習テスト（10%）を併せて総合的に評価する。

・特記事項・その他

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。なお、予習すべき項目（教科書の内容に関する選択問題と計算問題等）と復習すべき項目（教科書の内容に関する選択問題と計算問題等）およびその期限は、Moodle 上に詳細に提示する。予習テストの最後には、「予習を行って疑問に感じたことと、講義に臨むにあたって特に何を学びたいか」を記入する欄を設けている。この欄への書き込みに対しては概ね 24 時間以内に返信するので、積極的に記入することを期待する。また、この欄に、講義に対する要望、あるいは気になる点などを書き込んでもかまわない。なお、これらの欄への書き込みと返信は、氏名を伏せて過年度分と併せて随時公開される。

一部の講義では、学生参加型講義を実施するために、スマートフォン等を利用したクイズを講義中に行う場合がある。指示があった場合にはインターネットに接続できるように準備をしておくこと。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	プロジェクター（ACER、H5360）	1	スライドの投影のため